



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024
第57号 2018年7月発行 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行: 三軒茶屋教会 広報部

「この教会は交わりが薄い」。教会生活が長いキリスト者から時折語られる言葉だ。では、「教会での交わり」とは何であろう。

老若男女を問わず、理想家族的な信頼関係と温和な雰囲気以身を置くことだろうか。愛想のいい牧師といつ何時でも長話ができることだろうか。疑似的徒弟関係を作って互いの自尊心をくすぐりあえることだろうか。茶菓が用意されたサロンのような所でおしゃべりを楽しめることだろうか。金銭の貸し借りなど利便の便宜が図れることだろうか。

確かにそうした交わりを誰もがよしとする時代もあった。しかし、もしそうした人間のお好みの交わりをいつまでも重んじ続けられれば、その群れは、変化していく時代から取り残されていくだろう。今日、教会の礼拝に初めて出席する人々のほとんどは、魂の救いとその確かさを真剣に探し求めている。誰かと仲良くなりたいから教会へ行ってみたいという人はほとんどいない。新来会者の多くは、教会のキリスト者たちを注意深く観察しに来ていると言ってもよい。

教会の最も基本的かつ伝統的な信仰告白である使徒信条では、時の流

れを貫いて「我は聖徒の交わりを信ず」と表明してきた。昔も今も、「聖徒」であるキリスト者たちは、教会での交わりを信じる群れだ。

つまり、教会での「交わり」とは、あくまで信じる対象である。従って、人間がその交わりをお好みに盛り付けたり、理想の形に仕上げられるようなものではない。

最初の教会は、「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」(使徒言行録2章42節)と証言されている。ゆえ

聖徒の交わりを信ず

人間関係と神関係

牧師 伊藤英志

に教会は「民衆全体から好意を寄せられ」るに至り、「主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされた」(同47節)とも記されている。

主イエスの直弟子である使徒たちが語る教えに聞こうとするがゆえに互いの交わりが深まり、聖餐の恵みに与って共に祈っていた。

たとえ「こんな人がキリスト者なのか」という人がいても、あくまで神との関係をまず重んじるゆえに、教会は主に召し出された者たちの群

れとして、時代の荒波にあっても同じ望みを抱きつつ前進できたのだ。

今、時代の変化とともに礼拝出席者の減少に苦慮している多くの教会から「この教会は交わりが薄い」との声が聞こえてくる。

その「交わり」は教会における本物の交わりであろうか。期待している「交わり」とは自尊心や名誉欲を満足させようとするものになってしまいか。それでは本物の救いを求めて訪れた新来会者にもその実態を瞬時に見抜かれてしまうだろう。



「聖徒の交わり」とは、キリスト者たちそれぞれが立場や生い立ちが違っていても、己が持っているものや祈りの言葉を惜しまず差し出し合い、損得を越えて共有しようと努める姿勢を生じさせる。

神から与えられた恵みの確かさを語り合い、その恵みを喜んで共有しようとし、誰かのために用いていただけのことを信じて喜び合える。この交わりによって、次なる神の御業がどこかの誰かに現れ出ることに望みをかけていく。私たちはこの聖なる交わりを地上において深く味わうようにと召し出されている。